今月のソリューション事例

日本オラクル

名古屋大学が学内ポータルシステム用データベース基盤を刷新

日本オラクルは、名古屋大学情報連携基盤センターが運用している「名古屋大学ポータル」用のデータベース基盤をオラクル技術の採用により刷新した。

名古屋大学は、21世紀の学問の発展、科学技術の革新、優れた人材の輩出、高度医療などにおいて、社会に貢献できる拠点大学としての活動を進めている。その一環として、2002年４月に、大学内の情報化支援と情報基盤環境の整備・運用を担う情報連携基盤センターを設置した。名古屋大学は同センターにおいて、高等教育機関向けポータル構築フレームワークソフトウェア「uPortal」を利用した学内ポータルシステムを2003年４月より試験運用していた。試験運用中、同システムのデータベース基盤にはオープンソースのフリーソフトウェアが利用され、可用性の向上やデータベースサーバの負荷分散、運用支援体制の早期構築などが課題となっていた。これらの課題を解決するために「uPortal」の基盤のデータベースをフリーソフトウェアからオラクルデータベースへ刷新し、2005年１月から正式運用を開始した。

「名古屋大学ポータル」のデータベース基盤には「Oracle Database 10g」とそのクラスタ技術「Oracle Real Application Clusters 10g」が採用され、電子メール、コース管理システム、履修登録システムなどの学内での情報・サービスに対するアクセスの一元化と情報の共有化を実現した。小規模なシステムから始めて、ユーザー数の増加にあわせてシステムのサイズを柔軟に変更できる拡張性の高さ、24時間365日安定稼動で、同時に大量のアクセスがあっても問題なく稼動する堅牢性、低価格な費用でシステム構成を実現できる価格構成が採用のポイントとなった。同システムのシステム導入はオラクルのビジネスパートナーであるCSKが担当し、今年より稼動を開始している。

コーポレート・コミュニケーション室
URL：http://www.oracle.co.jp/press/

コリジェントシステムズ

KDDIが全国規模のネットワーク拡張をコリジェントに発注

次世代通信ネットワークの主要装置、パケットADM（Add Drop Multiplexer）の大手プロバイダであるコリジェントシステムズ社は、KDDIが全国規模のパケットベースメトロトランスポートネットワークの強化のために、同社のCM-100パケットADMを採用したと発表した。今回の採用は、KDDIの拡張計画の第二弾として、サービスエリアを拡大することを目的としたもので、2004年の第一弾では、1,000台以上のCM-100パケットADM装置が採用された。

KDDIのパケットベースメトロネットワークは、IPベースのテレフォニー用の「メタルプラス」や、音声、映像、データを網羅した完全なトリプルプレーサービス用の「光プラス」といった新しいサービスと、従来のKDDI 3G携帯電話サービスの両方に対応するためのものである。IP指向のインフラストラクチャを構築して、トリプルプレー、VoIP、ワイヤレスサービスに対応することで、市場拡大に有利なネットワークを確保している。

今回採用されたコリジェントシステムズ社のCM-100は、RPR（IEEE 802.17）とイーサネット、MPLSを組み合わせて、映像、音声、データ、およびTDMサービス用に最適化されたメトロトランスポートプラットフォームを提供する製品である。主要機能であるサービス品質とレジリエンシにより、キャリアが保証しているサービスレベルアグリーメントを確実に遵守。映像サービス用のマルチキャスト機能により、映像配信に必要な帯域量を大幅に削減することができる。そして、統計多重機能も備えているので、サービスプロバイダはネットワークトラフィック量が少ないときに未使用の帯域幅を再生、再販することができる。このような機能によりKDDIは他の方法よりも安価により多くの帯域を提供することができるようになった。

広報部　高田　TEL：03-5251-3811

シマンテック

電子県庁を目指す栃木県がコンサルティングサービスを採用

シマンテックは、栃木県庁がシマンテックのコンサルティングサービスを利用して、庁内全システムにおけるセキュリティ対策のための実施手順書作成を進めていることを発表した。この実施手順書は、栃木県が目標とする行政手続のオンライン化実現の一環として、推進している基本方針と対策基準に基づいたセキュリティ施策を具体化するために策定されるものである。

栃木県庁は、県民が安心して利用できる情報基盤構築を目指して、「基本方針」および「対策基準」に沿ったセキュリティポリシーに基づくセキュリティ施策を推進してきた。そのためには、情報資産の洗い出しとリスク調査を行ない、セキュリティポリシーをこれらの結果に基づいて、より実務に直結したルールとして書面化した「実施手順書」を作成する必要がある。しかし、多種多様な各庁内システムに対して、有効な実施手順書を作成するためには、専門知識と専門家の客観的な視点が必要である。そこで、栃木県庁はシマンテックのコンサルティングサービスを採用することにした。

シマンテックのコンサルタントは、各システム担当職員による情報資産の調査をもとに、リスク分析を行ない、実施手順書をつくるための具体的な実施内容を示すマニュアルを作成した。また、総務省のセキュリティ監査基準と栃木県の対策基準を照合し、栃木県の対策基準に必要とされる400項目を抽出。さらに、庁内の各システムの特性を考慮した優先順位をつけた。これにより、各システム担当者にとっては、担当するシステムが準拠すべき対策や、実施内容が具体的に理解でき、優先して取り組むべき項目が明確になった。また栃木県では、シマンテックの協力のもと、各システムの担当者全員に対してセキュリティ管理の重要性についての教育プログラムを実施し、担当者のセキュリティ意識水準の向上を図った。

シマンテック・プレスセンター
URL：http://www.symantec.com/region/jp/presscenter/

シービヨンド・テクノロジー・コーポレーション

英国最大の流通サービス組織“NISA-TODAY'S”がサプライチェーンの運用を最適化

シービヨンド・テクノロジー・コーポレーション（以下、シービヨンド）は、英国最大の流通サービス組織“NISA-TODAY'S”が、新しいアプリケーション・インフラストラクチャの基盤として同社の統合コンポジット・アプリケーション・ネットワーク・スイート「Integrated Composite Application Network Suite」を実装、稼動したことを発表した。NISA-TODAY'Sは、シービヨンドのソリューションを採用したことで、多くの“ベスト・オブ・ブリード”アプリケーションを伴ったコア・システムを置き換え、サプライチェーン運用と企業システムの機能の最適化に成功した。

常に状況が変化する市場で競争優位性を保つために、NISA-TODAY'Sは、システム間の正確で最適化されたデータ交換を可能にするインフラストラクチャの重要性を感じていた。その結果、既存システムと新規システムのシームレスな統合を実現する最適な方法を見つけなければならなかった。NISA-TODAY'Sのシニア・システム開発マネージャのPeter Walkerは、「様々なプラットフォーム上で動いている旧式のレガシーシステムによって、現状のインフラストラクチャは柔軟性が低く、多くの日常的な保守が必要でした」と語っている。

NISA-TODAY'Sの新しいアプリケーション・インフラストラクチャは、Retek社のRetek Merchandising Systemをベースに、オンライン発注システム、ウェアハウス、流通システムなどの新旧様々なアプリケーションに接続する。プロジェクトの進行をスムーズに行うには、新システムへの移行は段階的に行い現状のシステムも稼動させたままでなければならない。シービヨンドは、RetekのパートナーとしてRetek社のソフトウェアを最大限に活かしつつ、既存システムと統合し、コスト削減と“Time to Market”を実現した。

マーケティング部
TEL：03-5739-3822／E-mail：marketing@seebeyond.co.jp